

【入選】

水との関わり方

登米市立津山中学校

一年 佐々木 結菜

私の住む地域は、数年前の台風により大規模な洪水が起きた。その洪水は中学校のすぐそばで起きたが、ハザードマップにも書かれていない場所であったため、対策が遅れ、住民の生活が元のように戻るまでずいぶんとかかっていた。

このように、日本では今、水害が非常に多く起きています。水の問題はこれだけでなく、世界では海面上昇という大きな問題も持っており、問題解決に追われている。

だが、私は人の生活に最も関わっているものも、また、水だと考えている。食事でも、清潔に保つにも、くらしの全てに水は関わっていると思うのだ。それでも、水と考えると負の面が少し多く感じてしまう。なぜかと思った私は、この課題を通し、もう一度水についてよく考えてみることにした。

私が考えたことの一つ目は、やはり水は私たちの生活に深く関わっていることだ。料理や掃除、洗濯などあたりまえのことでも水がないとできない。このように深く関わっている分、水がないと行うことのできないことは多くあると思う。

二つ目、水がとても素晴らしいということ。一つ目にも繋がるが、私たちは水がないとこれまでの生活が営めない。これは、水が何にでも使ってしまうほど便利だということも表していると思う。だからこそ負の面が強く見えてしまう。例として、器用な人ほどできない所がよく見えてしまうなんてことはないだろうか。これと同様に、水が素晴らしいからこそ、負の面が強く見えてしまう。利点が生活にとけ込みすぎている分、とても強く負の面が見えるため、利点だけがイメージされることは少ないのかも知

れない。

私はこの課題について考える中で、一つの疑問について、ずっと悩んでいた。それは、

「洪水や津波が無くなればいいのに。」

という考えについてだ。たしかに私も同じ意見をずっともっていた。だが私はこれまでの考えの中、一つ新しい考えができてきた。それは、「水害は自然災害だから無くなることはないのに、なぜ無くなることだけを考え続けるのか」ということだ。これからも必ず水害は起きるだろう。だが、水害の恐ろしさや怖さは変わらない。なのに私たちの方は何も変わらなくていいのか、という思いなのだ。

私の思う水との関わり方は私たちがすっかり変わっていきながら正しく使うということだ。この思いは先程の考えから思ったことで具体的には、大切なものやないといけないものなどを、高い所に集めて置いておくなどすることによって守っていくという考え方だ。この考えが難しいことも分かっているが、変化を待つだけということは何の意味もないのではないかと思ってしまう。

私が生まれてから、何度かの水害が身近な所で起きているので、この土地に暮らす人々の苦労もまた、感じる人が多い。水害直後の現場も見ているため、より、このままではいけないという思いも強くあるのだ。水害が起きるたびに直すだけでは人の心にも限界がきてしまうだろう。しかし、水のな生活など、人間には考えられない。利点が多くあることも確かなのだ。

両方の方えから私が考えたことは、水の恩恵を受けながら、自分の身はきちんと守る、という考えだ。水のたくさんの恵みを受け、さらなる進化を目指す。それと同時に、先程の例のように、自分たちの身をしっかりと守るのだ。もし、進化したことが防災の技術ならば多くの人を救えるかもしれないのだ。今よりも幸せがあふれるすてきな未来だろう。

水の恩恵を受けながら、自分の身をきちんと守る、という考えが私の思う良い水との関わり方だ。